

氏名	高崎 博司	部署	理学療法学科	職名	准教授
研究分野	運動器理学療法				
学位	博士 (理学療法学)				
学歴	2004年札幌医科大学理学療法学科、6年札幌医科大学大学院修士課程保健医療学研究科徒手療法学				
経歴	2013年クイーンズランド大学博士研究員、14年埼玉県立大学理学療法学科講師、17年埼玉県立大学理学療法学科准教授				
所属学会 (役職)	日本理学療法士協会、日本整形外科スポーツ医学会、日本徒手理学療法学会（理事）、埼玉アスレチックリハビリテーション研究会（理事）、専門リハビリテーション研究会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	著者、編者名	発表等年月
1	Cross-cultural adaptation of the Satisfaction and Recovery Index among Japanese people with musculoskeletal disorders	単著	あり	J Phys Ther Sci; 34(5); P.374-378	Takasaki H	2022.5
2	The effect of cognitive functional therapy for chronic nonspecific low back pain: a systematic review and meta-analysis	共著	あり	Biopsychosoc Med; 16(1); P.12	Miki T, Kondo Y, Kurakata H, Buzasi E, Takebayashi T, Takasaki H	2022.5
3	Evidence-based practiceを実践するためのヒント	単著	なし	専門リハビリテーション; 20; P.9-12.	高崎博司	2022.9
4	Self-Efficacy for Home Exercise Programs Scaleの日本語版作成	共著	あり	徒手理学療法; 22(2); P.79-85.	山崎千聖, 高崎博司	2022.10
5	Therapeutic Alliance in Physiotherapy Questionnaire-Patientsの日本語版作成	共著	あり	徒手理学療法; 22(2); P.67-72.	長島英祐, 高崎博司	2022.10
6	Functional Movement Screening Systemにおける自動下肢伸展拳上スコア1と3の者における体幹伸展筋群の筋活動様式の違い -pilot study-	共著	あり	徒手理学療法; 22(2); P.73-77.	藤島大希, 吉川和希, 金野賢, 鈴木克弥, 高崎博司	2022.10
7	Effects of Cognitive Behavior Therapy on Patients with Chronic Whiplash-Associated Disorders: A Systematic Review and Meta-analysis	単著	あり	Journal of Rational-Emotive & Cognitive-Behavior Therapy; 2022; <a href="https://doi.org/10.1007/s10942-022-00490-y">https://doi.org/10.1007/s10942-022-00490-y</a>	Kondo Y, Miki T, Kurakata H, Takebayashi T, Takasaki H	2022.12
8	Possible solutions to enhance Evidence-Based Practice proposed by rehabilitation professionals in Japan: A Delphi study	共著	あり	J Phys Ther Sci; 35(1); P.31-39	Takasaki H, Ueno T	2023.1
9	Confirmatory factor analysis of the Japanese Health Locus of Control Scales among people with musculoskeletal disorders	共著	あり	J Phys Ther Sci; 35(1); P.7-11	Nemoto S, Miki T, Kondo Y, Takasaki H	2023.1
10	Preseason Prognostic Factors for Injuries and Match Loss in Collision Sports: A Systematic Review	共著	あり	Int J Sports Med; 44(1); P.3-8	Watanabe K, Kitamura T, Takasaki H	2023.1

(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月		
1	該当なし						
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月		
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	埼玉県立大学・奨励研究		頸部痛有症者においてランバーロールの有無で長時間のタイピング動作中の筋活動や姿勢に違いが出るか？：無作為クロスオーバー試験	研究代表者	2022.4～2023.3		
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	運動器障害治療学特論（大学院）	○	15	運動器理学療法マネージメントに関する最新知見を紹介した			
2	理学療法研究法		2.5	研究倫理申請書の書き方を指導した			
(2) 演習							
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	臨床推論演習	○	8	クリニカルリーズニングについて講義・演習を行った			
2	徒手理学療法学	○	8	徒手療法テクニックの演習を行った			
3	臨床推論実習	○	30	Evidence-Based Practiceとクリニカルリーズニングについて講義・演習を行った			
4	理学療法応用技術学F（特殊テクニック）	○	8	Pain neuroscience educationや特殊なテーピング、運動療法、徒手技術の指導をした			
5	理学療法セミナー（OSCE1）		8	OSCEに向けた演習と試験を行った			
6	理学療法セミナー（OSCE2）		8	OSCEに向けた演習と試験を行った			
7	リハビリテーション学演習（運動器障害治療学）（大学院）	○	30	運動器理学療法マネージメントの方法を演習した			
8	IPWシステム開発論2（大学院）		2	質問紙の開発方法を指導した			
(3) 実習							
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	IPW実習		2022.4～2022.10	オンラインで課題のファシリテーターをした			
2	臨床教育実習I		2022.2～2022.3	学生評価と実習後の振り返りを行った			
3	臨床教育実習II		2022.9～2022.10	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った			
4	臨床教育実習III		2022.4～2022.6	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った			
5	臨床教育実習IV		2022.7～2022.8	実習地訪問、学生評価、実習後の振り返りを行った			
(4) 論文指導							
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
1	卒業論文		2022.4～2023.3	主指導	12名		
2	修士論文		2022.4～2023.3	主指導（指導教員）	3名		
副指導（指導補助教員）	0名						
(5) その他							
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	東京工科大学 非常勤講師		2022.12	マッケンジー法の概要を解説した			
4. 社会貢献活動							
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師							
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月		
1	国際スポーツ競技対策委員会 第1回研修会	埼玉県理学療法士会	スポーツ現場での徒手療法<基礎編-1>		2022.7		
2	第10回運動器理学療法学会 学術大会	日本運動器理学療法学会	特別企画セミナー2 ガイドライン第2版の実践・活用～頸部機能障害～		2022.9		

3	埼玉県立大学保健医療福祉科学会 第13回学術集会	埼玉県立大学保健医療福祉科学会	多職種連携マネジメントに役立つ高齢者の運動器障害への対処方法	2022.11
---	--------------------------	-----------------	--------------------------------	---------

4	第62回近畿理学療法学術大会	第62回近畿理学療法学術大会	運動器理学療法実践のレベルアップのためのヒント	2023.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	埼玉県理学療法士会		国際スポーツ競技対策委員	2016.10～現在
2	The McKenzie Institute International		MII Research Advisory Committee	2017.1～現在
3	日本徒手理学療法学会		理事	2017.4～現在
4	埼玉アスレチックリハビリテーション研究会		理事	2017.4～現在
5	日本徒手理学療法学会		徒手理学療法雑誌編集委員	2018.4～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	国際協力事業	Musculoskeletal Science and Practice	論文の査読	2019.4～現在
2	国際協力事業	UNIVERSITY OF BAHRAIN	修士論文外部審査委員	2022.8
5. 学内運営				
	項目		内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	国際交流委員		2021.1～2023.3
2	学生支援	21期 学年担任		2021.1～2023.3
3	学生支援	学生支援委員会委員		2021.1～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	道学理事長賞受賞		埼玉県立大学	2023.2
2	CONTINUATION GRANT受賞		International Mechanical Diagnosis and Therapy Research Foundation	2023.3
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			